

昆虫文献目録「三橋ノート」の画像データベースの作成と公開

農業環境インベントリーセンター 安田 耕司 吉松 慎一 中谷 至伸 上田 義治

はじめに

農業環境技術研究所の昆虫標本館には、かつて昆虫研究家の間で「三橋ノート」と呼ばれていた手書きのノートが保管されています(図1)。このノートには、明治時代から昭和20年代後半までの国内の主要な文献に現れた昆虫の学名や和名とその関連文献情報が昆虫の分類群ごとに整理されており、わが国昆虫学の初期における昆虫情報の出典がほぼ網羅されています。ここで検索できる文献は、50年以上前の昆虫の分布や発生状況を示す貴重な情報を含んでおり、環境研究や分類研究においては今日でもなお有用な資料としての価値がありますが、最近の文献データベースでは検索することができません。そこで「三橋ノート」を画像データベースとして公開し、古いながらも貴重な昆虫情報の活用を図りたいと考えました。



図1 「三橋ノート」の書棚

三橋ノートの内容

「三橋ノート」は当研究所の前身である農商務省農事試験場に嘱託として一時籍を置いたこともある三橋信治氏(1878～1952)が、その生涯をかけて作成した推定50,000頁に及ぶルーズリーフ式のノートです。各頁には、明治時代から昭和20年代後半までに出版された昆虫関連文献中に現れた「種」や「属」などの分類群の学名および和名とそれが掲載された文献の著者名、書名(もしくは雑誌名、時に論題)、巻、号、頁、図版、図、発行年等の書誌情報が列記されています(図2)。これを参照することにより、知りたい昆虫の情報が掲載されている文献を簡単に知ることができます。

全体は目、科、属、種という分類体系に基づいて配列されており、コウチュウ目(136冊)、チョウ目(118冊)、ハチ目(64冊)、カメムシ目(62冊)、ハエ目(43冊)、バッタ目(13冊)、トンボ目(7冊)、トビケラ目(5冊)、アミメカゲロウ目(4冊)、その他(22冊)の合計474冊で構成されています。

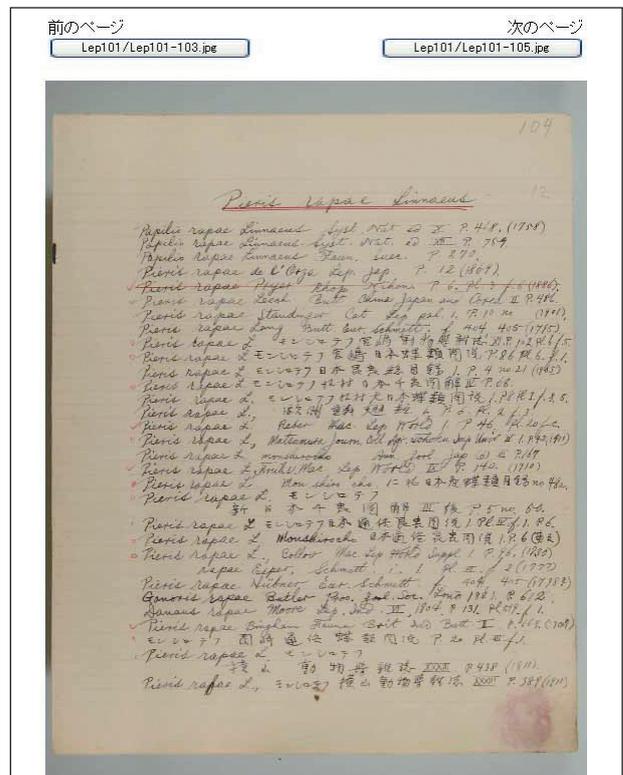


図2 頁表示画面

画像データベースの特徴と利用法

「三橋ノート」は50,000頁に及ぶ膨大な資料であるため、電子化するにあたり、改めて文字を読みとって入力することは労力的・時間的に不可能であり、また手書きであるため、文字の自動認識ソフトを利用することも困難であると思われました。そこで、頁を写真撮影し、その画像をそのまま利用者に提供することとしました。ただし、目的の頁画像を迅速に検索できるように、各頁に記されている主な学名および和名を頁ごとにキーワードとして選び、登録しました。

本データベースは農環研ウェブサイト「三橋ノート画像データベース」(<http://mitsuhashi.niaes.affrc.go.jp>)で閲覧することができます(図3)。具体的には、「アゲハ」や「モンシロチョウ」などのキーワードを検索語欄に入力すると、そのキーワードが登録されている頁のリストが現れるので(図4)、どれかのボタンをクリックすると該当頁の画像が表示されます(図2)。キーワードは、完全一致のほか、前方一致、後方一致、部分一致でも検索できます。また実際の頁には歴史的仮名遣いが使われていることが多いのですが、登録キーワードには原則として現代仮名遣いを使用しました。

今のところ、ウェブ上で検索可能なのは、トンボ目(7冊、1,223頁)とチョウ目(118冊、18,521頁)の合計約20,000頁分です。ここには、トンボ類約300種、チョウ類約650種、ガ類約5,300種の情報が含まれています。現在の日本産チョウ類の種数は約300ですが、「三橋ノート」にはその2倍以上の種数が掲載されていることになります。これは、1945年以前の「三橋ノート」の情報には台湾、朝鮮半島、中国東北部、サハリンの情報も含まれているためです。

おわりに

現在まで、我々は昆虫関連情報を広く収集・蓄積し、それらを検索・利用するための「昆虫インベントリーシステム」の構築に向けた研究を進めています。これまで長年にわたって蓄積されてきた昆虫に関する膨大な研究情報を検索条件も含めてこのシステムに取り込むのは容易なことではあり

ませんが、「三橋ノート」のような二次文献を活用することにより、必要とする情報の簡易・迅速な検索が可能になります。今後は、トンボ目とチョウ目以外の残り約350冊についても早急に電子化を進め、「三橋ノート」全頁の公開を早期に実現させたいと考えています。

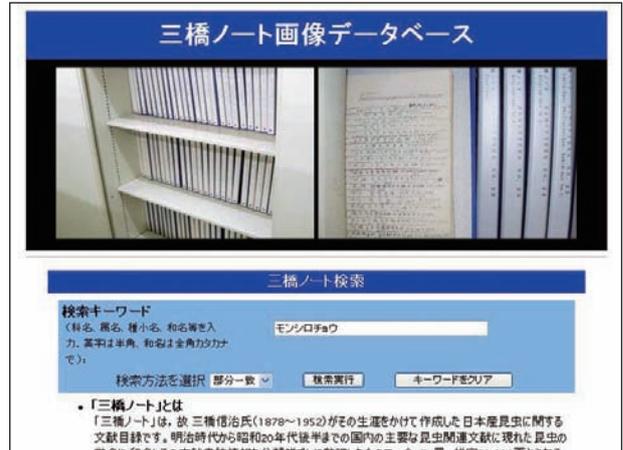


図3 キーワード検索画面

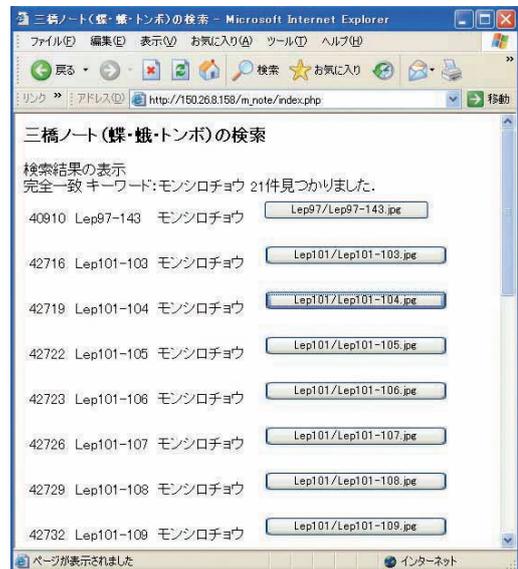


図4 検索結果表示画面